

発 達 4 (222~227)

座長 鈴木敏朗・内田伸子

- 222 子どもの発話停滞の認知的機能に関する付加的証
拠と理論的検討
筑波大学 田 中 敏
- 223 節のついた発話(1)——節の発生——
秋田大学 鈴木 敏 朗
- 224 節のついた発話(2)——発話状況と教育——
新所沢幼稚園 佐 藤 公 子
- 225 作文を通して見た児童の構文の発達(2)
——文の内部構造の変化——
栃木県身体障害医療福祉センター 秋場美智子
- 226 視点の言語心理学的研究
——Picture-descriptionにおける繋留点の問題——
信州大学 鈴木 情 一
- 227 物語産出に及ぼす結末呈示の効果
お茶の水女子大学 内 田 伸 子

222 茂呂(国語研)より①行為文か状態文かで記憶され易さに違いはあるか、②行為文の方が話者・聴者の物語世界の創出をもたらす、文構造の違いに加えて発話の意味合いの違いも影響するのではないかという問に対し、①教示通りでない発話は階層群に2例あったのみ、全般に問題はないだろう。②絵の中の対象を確認するというのも物語の導入では必要。しかし並置群の記述は不自然かもしれない旨の回答があった。鈴木(秋田大)より語尾が上がることは発話が続くことを示す。これは相手との関係を保持する働きかという問に対し、指摘通り相手とのコミュニケーションを接続するという面もあるし、状況内の相手との関係を考慮した面もあるなど、認知・情意をはじめ何重もの機能を負っているのだろうとの回答がなされた。加藤(お茶大)より添音のかわりに語尾の強調がなされる場合の処理の仕方について質問がなされ、強調も添音と同様の機能を果たしていると思われ、今後扱うべきだが、認定が難しいとの回答がなされた。鈴木(信大)より、226の結果を踏まえて、状態文では発話停滞が少なく行為文ではより多くなる傾向があること、また会話型の表現をする幼児では停滞が少なく、記述・説明型の場合は停滞が多くなるとの参考意見が出された。

223・224 田中(筑波大)より①採集した発話の長さはどれ位か、②分数の通分の手順を“節”をつけて教える試みとの関連で“節”の持つ意味についてどう考える

かとの質問がなされた。①について佐藤より、採譜できる条件で採集すると一音節程度の短いものが殆どで、長くても「誰かの誰かの落しもの」程度。②について鈴木より、発話の節とは、ルリアの言う語のインパルスの側面が機能し、問題解決にネガティブな働きを持つのではないか、また暗唱の際節をつけることにより、ことばが音韻的に構造化され脱落・添加や変更が生ずる現象とも関連させて考えている旨の回答がなされた。藤友(北教大)より①言語獲得期における母親の節のついた発話の促進的な役割についてどう考えるか、②幼稚園期の節のついた発話はその発話をする態度の方に問題があるのではないかという指摘に対して、①佐藤より、この時期の母親の節のついた発話は母子融合に促進的な役割を果たしていると考え。②佐藤より、問題解決をしなくてはならぬ場面で、節をつけた発話をすることで問題を直視しないことがあることが問題である。鈴木より、幼児教育の場でわざわざ節のついた発話を教えている状況がある。また、態度が節のついた発話となってあらわれという文脈でとらえている旨の回答がなされた。

225 茂呂より分析単位について田中より構造分析について質問がなされた。分析単位は文節から助詞・助動詞を除いたものであること、構造分析については文章の単位をどうとらえるか今後の課題であるとの回答がなされた。内田(お茶大)より①作文標本の抽出法について、②教師の修正の有無について質問がなされ、①文集からの無作為抽出であること、②この点はわからない旨の回答がなされた。

227 茂呂より非統括的結合の例について問われた。藤友より①Happy, Unhappy 群の命名は実験者の主観ではないかと指摘され、その通りである旨の回答がなされた。②Unhappy 群では話が元に戻るので難しく Happy では異なる結末なので容易となり、統制群ではさらに制約が小さいため容易になるのではないか、それらの実験操作によって生ずる内的過程は何かという旨の質問がなされ、実験群間には指摘のような差は生じなかったが、実験群では、発端から結末に向う命題の連鎖と結末から逆向する命題の連鎖を矛盾なく結合しなくてはならない点で一種の「前プラン方略」が必要となるため統制群より課題は難しい旨の回答がなされた。秋場(身障センター)より4・5才間の差をもたらしたものは何かの問に対して、作話過程のメタ認知的統制の発達についての仮説が述べられた。

(鈴木敏朗・内田伸子)